

会議名	令和4年度	開催日	令和4年9月22日(木)
	第1回台東区立図書館に関する意見交換会	時間	午後7時～8時30分
		場所	ZOOMによるオンライン開催
出席者	<p>大串夏身委員長(昭和女子大学名誉教授)</p> <p>野末俊比古副委員長(青山学院大学教授)</p> <p>田島大輔委員(公募区民)</p> <p>森真奈委員(公募区民)</p> <p>福沢俊之委員(台東区立御徒町台東中学校校長)</p> <p>佐藤有理子委員(台東区立松が谷保育園園長)</p> <p>永田晴久委員(台東区社会教育団体協議会理事長、台東区写真連盟理事長)</p> <p>梶靖彦委員(台東区教育委員会事務局次長)</p>		
配布資料	<p>事前配布資料</p> <p>資料1 台東区立図書館の現状と機能強化について</p> <p>資料2 中央図書館案内図</p> <p>資料3 台東区の図書館 令和3年度事業報告</p>		
内容	<p>1. 開会 配布資料の確認</p> <p>2. 挨拶 台東区教育委員会事務局次長 梶委員</p> <p>3. 委員紹介</p> <p>4. 委員長・副委員長 選出・挨拶 ○大串委員長、野末副委員長を選出</p> <p>5. 議事 台東区立図書館の現状と機能強化について</p> <p>○資料1及び2について、事務局から説明</p> <p>【委員長】 ただ今の説明について、質問はあるか。</p> <p>【委員】 台東区立図書館入館者数の推移について、主に横ばいであると思うが、徐々に減少しているように見える。ただ、平成27年度に上がっている印象を受けるが、ここは取り組みを強化したなどの要因があるのか、また、自然とそういった結果になったのか、何か理由はあるのか。</p> <p>【事務局】 平成27年度に谷中分室が開館した。それまでは谷中コミュニティセンター内に地域の方が運営している図書室があったが、コミュニティセンター全体を整備し、そこに中央図書館の分室という形で、平成27年4月に開館をした。それに伴い入館者数が少し増えている。</p> <p>【委員長】 職員の中に学芸員がいたと思うが、どこに配置されているのか。</p> <p>【事務局】 学芸員の資格を持つ専門員が一人おり、郷土・資料調査室を担当している。</p>		

【委員】

図書館内で交流をするという話があったが、子供については想像がつくが、大人については、どういった交流が行われているのか聞きたい。

【事務局】

郷土・資料調査室でのギャラリートークの実施や、年に1~2度、大人向けの講座も行っている。そういったところで、集まる機会を作っているが、子供と同じような形でのイベントは数少ない。

【委員長】

例えば、京都の方では、文化財・寺・庭などテーマを決め、関心ある方が集まり、図書館資料で調べ、現地に行き、また調べ、それをホームページなどで発表する取り組みがある。また、住民の方が地域の特産を、図書館資料で調べながら、地域の活性化に繋げていくなどの試みを行っている図書館が最近増えている。台東区は、テーマになることがたくさんあるので、図書館としてもそういったことに関心を向けるといい。住民の方に集まってもらい、学芸員の方と研究や地域を歩くなど、掘り下げた方が成果も生まれると思う。

【委員】

入館者の年代や男女別などのデータはあるのか。世代ごとに何を求め図書館に行くのかなど、調べたものがあるか。

【事務局】

利用登録者の中で、一般の方と子供の0歳から12歳、13歳から15歳というデータをとっている。現在の登録者全体で87,000人弱だが、そのうち一般の大人の方が76,000人ぐらいとなっている。細かくではないがそういったデータをとっている。

【委員長】

台東区立図書館はネット上に、図書館案内のビデオを公開しており、いい出来栄である。その中に、中央図書館の自動貸出機の説明があるが、聞いている案内役の方が喜び驚いている。自動貸出機は利用者の方もよく使っていると思うが、中央図書館以外の各地域館にも配置しているのか。

【事務局】

自動貸出機は中央図書館のみに設置している。

【委員長】

次に、意見を聞かせてほしい。

【委員】

情報化の進展に対応できる環境整備について、他区の電子書籍サービスを利用しているのを見て、デジタルとリアルとの融合、電子書籍サービスが重要と感じた。ただ、試験的なもののためか、デジタルなのに待ちがあった。おそらく契約上、貸出数などに制限が設けられているのかと思うが、本来デジタルであれば、読みたい時に読みたい人が読めるというようなサービスが重要かと思う。

大人では、ビジネス本など多く出ているが、全て購入はできないため、スピーディーにリアルタイムに、電子書籍などで待ちなく読めるというのは、非常にニーズとして高いと思う。中央図書館の設備とは少し違うかもしれないが、台東区立図書館のサービスとして、電子図書の貸出も、ぜひ俎上に上げ検討してほしい。

【委員長】

電子書籍については、皆さん関心をお持ちだと思うが、日本全体の図書館では導入館が少ない。図書館に入っているものは基本的にパッケージで、その中から資料を選ぶという方式になっており、意外と範囲が狭い。また、日本の場合、コミックが多くいるが、コミックを扱わない図書館も多く、その点でも導入がどうなのかということもある。

情報化といえば今、世間一般ではDX(デジタルトランスフォーメーション)、新しい技術を図書館で活用して、サービスの質を上げるなど課題になるだろうと思う。ただ、そのためには研究が必要。ロボットが入口で対応する、本をロボットに探させるなどの試みをしようとしているところもある。また、ウォークスルーで、図書館の本を持って入口に入れば返却、外に出れば貸出になるという、チェックなしで貸出返却になるシステムは、大学図書館ではすでに一部実用化が進んでいる。これからかなり、いろいろなものが出てくると思う。実際に見た事が無いのでどうなるのかはわからないが、中国

ではロボットに書架整理をさせるなど実用化が進んでいる。

台東区の歴史・文化に親しみ知的好奇心を高める環境整備については、現在、図書館の奥で実施している企画展などは、入口あたりで実施した方が台東区の図書館には相応しいのではないかと思う。23区の中でも、歴史などいろいろな意味で輝ける台東区である。ほかの図書館で、台東区のことを調べたものが、国会図書館のレファレンス協同データベースに上がっているが、私から見ると台東区でちゃんとやらないといけないと思う内容になっている。

【委員】

台東区の歴史・文化に親しみ知的好奇心を高める環境整備について、アイデアでお話させていただくと、区内の小・中・高校生や大人でもよいが、一年間の課題図書を決め、いろんな方にリレーして読んでもらい感想文を月ごとに掲載するようなものがあるといいと思う。私自身、歴史に関心を持ち勉強してこなかったため、とっつきにくいイメージがある。中央図書館の資料調査室もとても素晴らしいのだろうということは伝わってくるが、どこから興味を持ち調べていこうかとなると、すでにたくさん知ってる方が造詣を深めていくための場所になっているような印象があり、新しい世代の方が深掘りしていくということには繋がりにくいと思っている。やはり、人が一番興味を持っているのは人だと思うので、ほかの人が何を考えているのか、すでに歴史が好きな人が書いている感想文を読む、まったく読んだことがない人の感想文を読むなど、面白そう、一冊借りてみよう、とビギナーが入れるような展示をやってみてもいいのではないかと考える。そういった事例や、おすすめの作品などがあれば聞きたい。

【委員長】

今の話どうか。図書館側としてアイデアはあるか。

【事務局】

非常に面白いアイデアであり、新たな取り組みとして何か考えていけたらと思う。

また、来年は池波正太郎の生誕100年という節目の年になるので、1月から12月に一年間かけ事業を行っていく。台東区出身、直木賞受賞、こういった素晴らしい作家がいるということも、いろいろな取り組みの中で、ぜひ子供たちにも知ってもらいたい。小学生向けに文庫内で簡単なクイズラリーを行うなど、子供たちが興味を持つような事業を展開して行きたいと思っている。また、文庫の中に感想を書いていただくノートがあり、池波正太郎の作品に対して、感想・意見をたくさん頂いているので、そういったものを貼り出していこうと考えている。

【委員長】

例えば、日本で初めて「君が代」を演奏したのは吉原の人達であり、国立国会図書館が膨大な資料を歴史的音源という形で公開している中に入っている。また、子供たちが調べ学習などで興味を持つのは、浮世絵である。「変わり朝顔」という江戸の町で品種改良をした朝顔を作ることを、毎年日本中の子供たちが調べているが、特に、浮世絵を紹介をしている図書館の地域に住む子供たちは熱心にレポートを出してくる。国会図書館、ヨーロッパやアメリカの図書館などは、浅草関係の浮世絵をたくさん持っている。そういったものをインターネットで紹介できるようなシステムも作れるので、図書館員の方はどんどん紹介できる。音を組み合わせると立体的に紹介できるような環境も整いつつある。

さらに、絵葉書や明治になってからの写真もたくさん残っている。そういったものを紹介すると、子供たちから大人まで地域に対する親しみが湧くのではないかと思う。それもまたこれからの課題で考えていただきたい。

【副委員長】

先ほどの説明の中に、スペースが少ないという話があったが、書庫があるか聞きたい。

【事務局】

書庫は地下に備えている。

【副委員長】

機能の拡充・強化ということで、書架スペースを節約し書庫に入れ、そのスペースを確保するという方法もある。コロナ禍でも予約は減らなかったということで、ピンポイントでこれを読みたいと予約をするということがわかっており、開架でなく書庫でも良いはず。開架にあるべきものと書庫にあるべきものを少し仕分けしてスペースを稼ぐ事ができるかと思う。海外でもそういう例は多いので、一つのアイデアかと思う。

また、場所の確保とは言いながら、十分なスペースがなく、イベントや交流のスペースがないということで言えば、時間で

区切るという手法も多くの図書館でやっている。曜日や時間であらかじめ区切り、賑やかにしている時間にはイベントや交流の場所にするなど、実質的にスペースを確保するというやり方もあると思う。

また、人の問題については、先ほどのみんなで感想を共有するというのも非常に面白いと思うが、こうして我々がこれもある程度と行っていくと、図書館職員の負担がどんどん増えていくことになるので、区民の皆さんの協力を積極的に仰いでいくべきだと思う。いわゆる利用者協働というもので、大学図書館などでは学生協働と言って、学生が図書館で働く、あるいは自分たちで企画をしていくというのが、ポピュラーになってきている。これは公共にも広がっており、協力の相手は個人・NPO・学校・企業・役所の部門でもいい。いろいろなところと協力をしながらテーマを決めてやっていく。美術館や博物館では、ボランティアで市民区民の皆さんが協力することがある。図書館でももっと積極的にやっていいと思う。

例えば、山形県酒田市の駅前に図書館が入っている複合施設が出来たが、そこは地域の企業と、大学、高校、観光担当部署、観光協会と協力してやっている。施設に入ると観光案内所がある。そこで、高校生がボランティアで働いている。高校生や大学生が企画を立て、文章を作り、非常にいい取り組みをしている。近所の英会話学校が英会話の資料や講座自体を寄付するようなことをやっており、図書館だけ、市だけで全部やろうとせず、周りの人たちを巻き込みながらやっていく、得意なところを活かしていただくという、とてもいい取り組みになってくると思う。いろいろなところと協力していくと、新しいアイデアもでき、人手不足も解消できるということで、包括的な意見ではあるが、そういったことを考えていくといいのではないかと思う。

【委員長】

台東区は、住民の方々が図書館的な活動に関わるということでは、非常に古くから取り組まれてきた。住民の方々と一緒に運営されているコミュニティ図書館が3館あった。ただ、そこは図書館ではないので、都立図書館の資料を借りることができないことなどもあり、発展させられない形になったのかもしれない。もう一度組み直して、今のような意見を受け入れるのが良いと思う。

もう一つ、本というのは、やはり表紙。本棚の写真があるが、例えば一枚目の⑩番で書架内の書見台のある本棚があるが、この脇の本棚の真ん中二列ぐらいに、表紙を見せるような本の展示をし、分野ごとのテーマでミニ展示をすることで、利用者の方の関心をもっと高めることができると思う。そうすると、本棚もいっぱいになるが、その辺は割り切り、住民の方々に、もっと本に親しんでいただけるような仕組みを考えることも必要ではないかと思う。

【委員】

少し脱線してしまうが、次回の意見交換会も、今回のように項目ごとに意見を言うような形式で進んでいくのか。というのも、事前資料の配布もあることから、何かアイデアがある方はメール等で送付し、それを事前集計する形で当日資料に箇条書きなどで反映した方が、意見が出やすいのではないかと。それについて、有識者の方々のコメントや会議内での補足という形で、進行がしやすいのではないかと思う。

【事務局】

今回は、皆様のご意見やアイデアを事前にメールでいただき、資料を整え、そこからまた広げていくという形にさせていただければと思う。

【委員】

中学生一人一台タブレットの導入から一年経つ。文部科学省も言っているように、タブレットが文房具として扱えるようになってくると、タブレットに五教科の教科書が全て入り、タブレットを一台持って図書館で勉強するということがあるかもしれない。各家庭でのWi-Fi環境はかなり整ってきているが、まだ課題はある。そのような時に、図書館においてWi-Fi環境も含めたタブレットが使える場があるといい。タブレットだと一人一台のタブレットに向かって勉強するが、共同して学習するという学習の在り方も、これから考えていかなければいけない。

こうしたWi-Fi環境や共同して学習する場など、物理的な環境が図書館で整っていれば、図書館に行ってみんなで勉強しようとか、タブレットを使って勉強しようとか、そういう生徒たちも出てくるのではないかと考えている。

そういう意味では、今教育現場で一人一台タブレットが浸透しているので、図書館においてICT環境が整っていると、学校としてもいいと思う。

また、池波正太郎さんの特集などは、学校の図書館でもやっており、中央図書館で実施している事業のアナウンスがあると、学校でも図書館だよりや図書委員会での配布物など進めやすいと思う。

【委員長】

これは、図書館側も学んでいかないといけない課題であろうかと思う。

【委員】

先ほど言ったような形でWi-Fi環境を増やすと、やはりスペースが課題なのかなと思う。生涯学習センターの建物では、図書館以外でも全部が整ってない。確かに一階はWi-Fiが使えるが座るところが無い。ITでどうにかしたいというのが生涯学習センターの中でも問題になっていると思う。なので、図書館だけではなく、全体的に考えていかないと難しいのかなと思う。

また、私はよく図書館を利用するが、以前は年に数回、紙の新書本カバーが配布されていたと思う。ああいったサービスもまたやってもらいたいと思う。

【事務局】

今日は中央図書館の機能強化ということだが、センター全体の設備改修の中で、ほかの階も機能を見直して行くことになっている。大きなテーマとしては、やはりICT環境などを強化していかなければいけない。Wi-Fi環境もそうだが、情報発信の部分でも、ユーチューブ動画などを活用した情報発信というのでも必要ではないかと思う。情報発信の部分で、動画をどのようにして作るか、そういった機能もセンターの中に持たせなければならないのではないかと等検討している。その中で、中央図書館となった時に、スペースが限られた中で、それをどう有効に活用して行くかということが非常に大きな課題である。副委員長からご意見をいただいた、ある程度資料を間引いてスペースを確保するというのもできるかと思う。特に視聴覚資料は先ほどグラフで見たとおり、利用が減っている中で、その部分を減らしバックヤードに入れるなど、スペースをどう確保していくか、また5年10年先を見た上で、この機能強化を考えていく必要があるのではないかと考えている。今日いただいた意見も踏まえ、これからさらに意見・アイデアを出していただければ非常に助かる。

【委員】

自園のことになるが、コロナ禍で中止していた絵本の貸出を再開し、いつも売り切れ状態になっている。仕事をしているお母さんたちが手軽に送迎時に借りる姿はある。そういう方たちが休みの日に図書館に行ってみようと思うきっかけ、ニーズを、保護者の方に聞いてみたいと思いながら、委員の方の話やこどもとしよしの配置などを見ていた。また、図書館は、いい環境で、選びきれないくらい絵本があるということを感じたので、保育園として、図書館の楽しさを伝えていけるか考えながら話を聞いていた。

【委員長】

図書館資料の貸出でも、子供の部分は少し増えている。本の販売も、ほかは少し減っているが、子供の方は増えている。やはり、子供の読書というものが、いろいろな形で取り組まれてきた結果だと推測できる。これからも子供の読書や子供へのサービスは、いろいろな形で取り組まなければいけないテーマでもある。

また、職員の研修も、非常に重要なテーマの一つになると思う。読書バリアフリー法に基づき、基本計画があるが、その中では職員の研修という項目を設け、取組の提案もある。さらに、IT環境・IT技術の活用など、これから考えていかなければいけないと思う。絵本のデジタル化や、図書館によっては、住民の方が作られた資料をデジタル化し、電子書籍の貸出タイトルとしての導入を試みようとしているところもある。これから検討していくことの一つではないかなと思う。

他に意見などあると思うが、事務局の方にメールなどで寄せていただき、事務局の方でも、またそれを検討されると思う。これで議事を終了とする。

6. 閉会

以上